

スケーラビリティ、パフォーマンス、 使い勝手のよさを評価、 ZPAで1万人規模のユーザーが社外から アクセス可能な環境を整備

CTC

Challenging Tomorrow's Changes

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

<https://www.ctc-g.co.jp>

本社所在地：東京都千代田区
霞が関3-2-5 霞が関ビル
ユーザー数：10,000
業種：ITサービス業
導入ソリューション：ZPA
(Zscaler Private Access)

システムインテグレーターの伊藤忠テクノソリューションズ (CTC) は2017年の「テレワーク・デイ」で、リモートアクセスの同時接続に限界が生じたことから、新たなリモートアクセス・ソリューションとしてゼットスケラーの「ZPA (Zscaler Private Access)」を導入した。1カ月以上に及んだ2019年の「テレワーク・デイズ」では5,500のログインユーザー、1日の3,000のユニークユーザーに上ったが、スムーズに接続することができた。CTCでは今後のテレワークの拡大や出社困難が予想される2020年の夏の祭典の時期に、ZPAをフル活用して行く予定だ。

社員一人ひとりの多様性をキーワードにインフラ整備に取り組む

伊藤忠テクノソリューションズ (CTC) は1972年創立のシステムインテグレーターだ。同社は「明日を変えるITの可能性に挑み、夢のある豊かな社会の実現に貢献する」ことを使命に、コンピュータ、ネットワーク、アプリケーションのコンサルティングからシステムの開発、運用・保守、アウトソーシングまでのトータルソリューションを提供している。

CTCでは、2020年度までの中期経営計画「Opening New Horizons ～新しい景色を見るために～」で、「ビジネス変革」「強みの強化」「新分野の開拓」「経営基盤の強化」の4つのHorizonsで、グループ全体の成長を図ることを目指している。すでにリカーリング型ビジネスやIoTビジネスで成果が出始めており、アジャイル開発やオープンイノベーション、グローバルビジネスでも新しい取り組みを進めている。

CTCの中で、先端技術を活用した社会や企業の課題を解決する新たなサービス/事業の創出に取り組んでいるのがサービスデザイングループだ。同グループに所属する情報システム室の2019年度のテーマは「どこでも誰とでも、生き生きと創造的業務に挑戦できるワークモデル推進のために統制と多様性を両立させたインフラの整備」である。「取り組みの中で重要なのが多様性の確保です。以前は様々な分散しているデータを集約する形でインフラを整備してきましたが、最近では個人個人の多様性を重視する方向に変わり、それを実現するための施策に取り組んでいます」とサービスデザイングループ 情報システム室 情報システム部 インフラシステム課 課長 浅沼 宏紀氏は語る。

2017年「テレワーク・デイ」でリモートアクセス・システムの限界が露呈

その一環として、CTC では総務省、厚生労働省や東京都などが呼びかけて実施している「テレワーク・デイ」に積極的に参加してきた。テレワーク・デイはモバイルやサテライトオフィスなどのテレワーク、時差出勤などを組み合わせた多様な働き方を展開するもので、2017年は2020年の夏の祭典の開会式にあたる7月24日に行われた。「大会期間中、関東圏の社員は鉄道の規制などもあって、会社に出社できないかもしれません。そうすると、リモートアクセスで、社外や自宅から自由に接続できる環境がないと仕事になりません。そのために、まず2017年のテレワーク・デイに参加し、リモートワークのトライアルを行ったのです」とサービスデザイングループ 情報システム室 情報システム部 インフラシステム課 主任 実松 智洋氏は説明する。

CTCではオンプレミスのリモートアクセス・システムを自社のデータセンターで運用してきた。2017年のテレワーク・デイではそれを利用したが、同時アクセス数が2,000を超えたあたりからパフォーマンスが落ちて、それ以上接続できなかった。その状態をあらかじめ予測していた情報システム部では新たなリモートアクセスの仕組みの検討に取りかかった。そして、2018年7月23日から28日の5日間行われた2018年「テレワーク・デイズ」では、ゼットスケラーの「ZPA (Zscaler Private Access)」を試験的に使った。そこでは同時アクセスが5,000ほどとなったが、問題なく接続でき、パフォーマンスも落ちることはなかった。

“「ZPA はクラウドサービスなので、導入決定すれば、時間をかけずに使えるようになるのは大きなメリットです。また世界中にアクセスポイントがあるので、出張しても普段と同じ環境で使えるのも便利です」”

伊藤忠テクノソリューションズ
株式会社
サービスデザイングループ
情報システム室 情報システム部
インフラシステム課 課長
浅沼 宏紀氏



伊藤忠テクノソリューションズ
株式会社
サービスデザイングループ
情報システム室 情報システム部
インフラシステム課 課長
浅沼 宏紀 氏

ZPAで1日3,000のユニークユーザーがスムーズにアクセス

その結果を受けて、CTCでは全社1万人規模で利用する新たなリモートアクセス・ソリューションを採用することにして、複数のサービスを比較検討、最終的に「ZPA」を選んだ。

ZPAを選んだのはスケーラビリティとパフォーマンス、使い勝手のよさだった。ZPAであれば、合併や合併などで社員が急増しても簡単に拡張できる。オンプレでシステムを構築すると、ハードウェアを増設しなければならず、リードタイムが長くなってしまふ。またテレワーク・デイズの時に一度にアクセスが集中しても、パフォーマンスを落とすことなく、利用することができる。さらにユーザーの接続の方法がブラウザベースではなく、既存のリモートアクセスの時と大きな違いがなかったため、ユーザーが違和感なく使えることも大きかった。「ちょうどクラウドサービスを積極的に取り入れていこうとしていた時期で、ZPAもそのひとつとして選定しました」（浅沼氏）。

CTCがZPAの正式採用を決めたのは2018年12月、1カ月ほどで構築を完了させ、2019年3月に正式に利用を開始した。導入は仮想基盤に中継サーバーであるコネクターを立て、インターネットと通信できるようにするだけなので、非常に簡単で、大きなトラブルもなかった。こうして、CTCでは社員がデータセンターのシンククライアントシステムに接続、社内システムを使う環境を実現することができた。

ZPA正式採用後、初めての「テレワーク・デイズ」は2019年7月22日から9月6日の1ヶ月間以上にわたって行われた。全期間を通して1度でもログインしたユーザーは約5,500、1日あたりのユニークユーザーは約3,000に上ったが、パフォーマンスの問題もなく、ユーザーはスムーズにアクセスすることができた。



伊藤忠テクノソリューションズ
株式会社
サービスデザイングループ
情報システム室 情報システム部
インフラシステム課 主任
実松 智洋 氏

1万名のアカウントでテレワークの拡大にも対応可能な環境を用意

現在、アカウント保持者は約1万名で、テレワークに限らず、営業担当者が出先で利用したり、エンジニアが常駐先で使ったりするので、常時2,000以上のアクセスがある。「運用面で見ると、脆弱性対応をまったく行わなくて済むので、とても楽です。今までは脆弱性のアナウンスがあると、該当しているかどうかをチェックして、該当していると、メンテナンスのための時間を確保して対応していました。その作業が全くなかったので、他の業務に時間を充てることができまふ」とサービスデザイングループ 情報システム室 情報システム部 インフラシステム課 草場 知恵子氏は語る。

また今までのリモートアクセスはブラウザを開いて、URLを入れてから、ワンタイムパスワードを入力する必要があった。それに対して、ZPAはアプリケーションを起動して、ログイン・パスワードを入力するだけで済むので、ユーザーからは接続が簡単になったと評価する声が多く聞かれる。

2020年は夏の祭典も開かれることもあり、CTCでは人事制度上、テレワークを拡大しようとしている。その中で同時アクセス数がさらに増えて、8,000を超えても、仮想基盤上にコネクターサーバーを追加するだけでよいので、半日もかけずに受け入れ体制を整えることが可能だ。「クラウドサービスなので、導入を決めればすぐに検証を行い、正式採用に進むことができるのは大きなメリットです。またZPAは世界中にアクセスポイントがあるので、海外に出張する人、逆に海外から日本に出張してきた人も、いつも利用している環境と同様で違和感なく使えるのはとても便利です」と浅沼氏は強調する。



伊藤忠テクノソリューションズ
株式会社
サービスデザイングループ
情報システム室 情報システム部
インフラシステム課
草場 知恵子 氏